



平成30年度 協会計画研修について

研修部



平成30年度の協会実施研修は、東日本研修センタ190コース、西日本研修センタ140コースを計画しています。受講予定者は約7千人です。

研修計画策定にあたっての考え方は次のとおりです。

- (1) 通信建設業界を取り巻く環境および会員各社共通の課題解決に即した研修を設定
- (2) 研修分科会活動をベースに、研修効果向上に向けたPDCAを実践
- (3) 受講ニーズは極力受け入れることとし、特に安全等ニーズの高い分野は重点対応
- (4) 東日本・西日本研修センタの研修は、ベースは共通としNTT東西様等の動向および会社ニーズを反映

それでは、業界を取り巻く環境および課題別にポイント、主な研修コース等を紹介します。

(1) 安全

安全関連研修は38コースを計画しました。受講予定者は約1,100名です。昨年度は重大人身事故の根絶には至らなかったこともあり、研修を通じて安全意識の浸透、基本動作遵守の動機づけとなるよう取り組みます。

指導者層向けとしては、各社で充実強化中の安全専任者について、新任を対象とした研修と、既従事者向けのブラッシュアップ研修（今年度新設）、KY指導者、現場代理人および安全マネジメント研修等があります。

現場第一線向けには、安全への気づきが重要との観点から、危険体感、安全パトロール、高所作業車危険再認識教育等、実習を多くとり入れた研修を継続実施します。

また、設備事故の撲滅に向けて、所外・土木・所内・電力など各種設備事故防止研修、同インストラクタ研修、電源線工程責任者研修等があります。

(2) 業界人材確保／能力向上

新入社員向けの各種基礎研修および事業推進力を高めるためのリーダ／マネジメント研修に関しては48コースを用意しました。

基礎研修は、線路科、土木科、所内科、電力科および

所内／所外を合わせた統合科の5種類を設定し、全体で420名が受講予定です。

マネジメント力向上等の研修は、リーダーシップを發揮しつつ業務遂行にあたってのPDCAを回す能力を高めるコンストラクションマネジメント研修、リーダーシップ力強化研修、そして女性活躍の推進に資するべく女性リーダ研修等があります。

人材確保支援として、学生の夏休み期間中に2週間にわたってインターンシップを企画中です。前半は東西両研修センタにて座学、実習を行い、後半に会員各社における現場体験により当業界へ希望する若者を一人でも増やしたいと考えています。

(3) 新技術の普及とレガシー技術の継承

NTTグループの通信ネットワークの基盤が光をベースとするIP通信に移行し、モバイル系では5Gが間もなく本格化される状況にあります。そのような中、当業界では、NTTグループの設備構築に必要な技術者を拡充するとともに、業務の複合化や人員流動を進めていく必要が出てきています。

今では、新旧の技術や混在設備への対応、固定から無線、さらにはユーザ系等の業容拡大事業への対応、設計・工事業務から保守・設備運営業務への対応など、多様な人材の“複合化”が急がれています。

このような観点から、スキル拡充に必要なIP、光、ネットワーク系最新技術等に関する研修を充実しました。また、モバイル分野では従来からのLTE技術に加え5G方式に関する研修を新設するとともに、モバイル事業従事者の増加を念頭に初心者向け無線基礎研修を計画しています。

レガシー技術の継承としては、メタリック関連の設計・建設や、土木関連の設計・建設技術、そして社外工事立会技術等のスキル習得研修を実施します。

この結果、新旧技術関連研修は74コースを予定しています。

(4) 設備保守・運営事業拡充

当業界では、東日本ではPエリアとして、西日本では

保守協業と銘打ってNTT東西様の設備保守・運営を担っています。これに応じてアクセス、宅内、NWオンサイト設備等の保守スキル者拡充に向けた研修充実や、災害発生時の的確な初動および一次対応を内容とする研修を拡充します。

研修コースとしては、ガスケーブル保守、所内保守業務研修、災害対策科等27コースを計画しました。

(5) ユーザビジネス対応力強化

ユーザ系は端末機器の多様化、通信事業者の新たなネットワークサービス、NTT東西様のコラボレーション関連工事など変化の激しい分野です。

前年度から始まったNTT東日本様のビジネスホンの調査業務、いわゆるビジネスデリバリに関する研修についてもIP宅内研修、ビジネスホン技術研修等にカリキュラムとして織り込む対応をしました。

利便性の高さから拡大し続ける無線LANやVPNについても技術者の充実を図る観点から研修を設定しています。

そのほか、各社にて事業拡大領域として実施しているIPネットワーク機器、サーバ工事等の技術力を確かなものとするための各種ベンダ検定や、クラウド、IOT、ビッグデータ等のソリューショントレンドへの対応研修を設定しました。

その結果、ユーザ系の研修コースは99となりました。

(6) NTT東西様の業務実施に必要なライセンスへの対応

NTT東西様では確かな技術力を持って品質の高い仕事をするために、業務に応じた独自資格を設定しています。最近ホットなのは設備保守・運営に関することで、特に、研修においてはアクセス／ユーザ系保守関連資格取得に向けた取組み強化がポイントになっています。また、施工技術資格を得るものとして、NTT東日本様から実技試験免除対象研修は引き続き実施していきます。

これらNTT東西様等の資格取得に関わる研修は、アクセス保守光設備研修各種、IP宅内研修、光加入者線路研修、交流電源無瞬断切替技術者研修など、全部で23コースとなっています。

(7) 施工に必要な公的資格等の取得

次に、公的な資格取得についてです。通信設備との接続工事に必要な工事担任者資格については東西研修センターにて短期集中研修を設定するとともに、eラーニングで受講できる工事担任者養成講座eLPIT（エルピット）を引き続き実施します。特にeLPITは例年約300人が受講し、日々の仕事と自宅や事務所での学習とを両立され多くの方が資格を手に入れています。

電気工事士資格については1種および2種に対して、それぞれ筆記コースと技能コースを設定し、模擬演習を駆使して実際の試験に大いに役立つ内容となっています。

そのほかにも昨年度から実施している電気工事施工管理技士、第1級陸上特殊無線技士等の資格取得支援を行います。

労働安全衛生法で定められている低圧電気取扱業務特別教育については、今年度から従来の座学に実習を加えた2日間コースにしました。多くは基礎研修と連続した日程として、現場業務に就く前に修了できるようにしています。

資格取得および法令関連の特別教育コースは42の設定です。

(8) 研修運営

各研修実施にあたっては、研修分科会等を通じてカリキュラムに応じた各社のエキスパートが座学や実習にあたることとし、経験や事例も織り交ぜ効果の高い研修内容となるよう工夫しています。

前々号でご紹介した安全・線路・土木・宅内・交伝・無線・電力の研修分科会活動も今年度の活動テーマを決め研修効果改善等に向けて取り組み始めています。

今年度のトピックとしては、土木系の共通的な研修を東日本研修センターにて集約実施することとなりました。これにより受講希望の少なさから西日本のみでは中止となるようなケースもなくなり、インストラクタも東西各社から選出されるなど研修効果向上も期待できます。

以上が平成30年度の研修概要です。

各社の受講希望調査は終了していますが、追加の希望があればぜひ各社の研修窓口にご相談ください。

